



Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所

〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

ホームページもご覧下さい。 <http://www.amsl.or.jp>

TEL:098-987-2304 FAX:098-987-2875 E-mail:amsl@oki-zamami.jp



## ●寝ている間の身体測定

### ーアオウミガメの成長ー

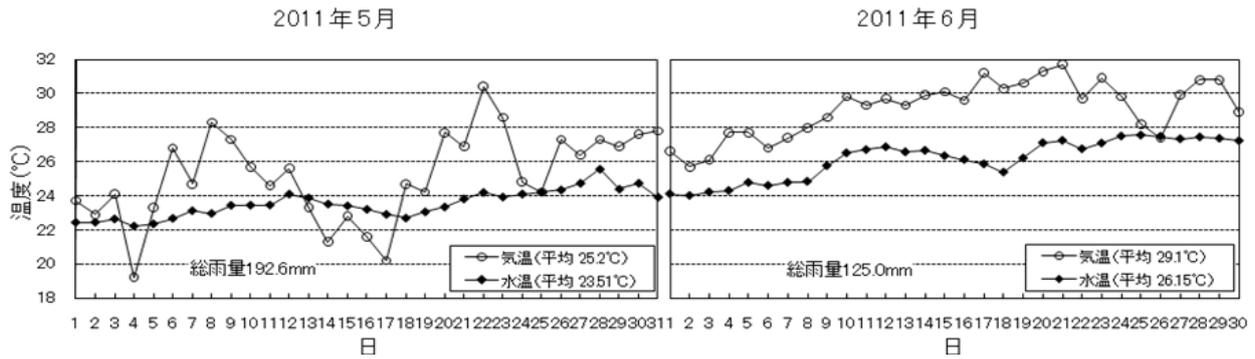
先月 6 月の満月の後にはたくさんのサンゴが産卵し、みなさんの中にもその光景を海の中で楽しんだ人も多いと思います。けれども、実は今年のサンゴは少しいつもと違って、5 月にはほとんど産卵しませんでした。きっと海水温が低く、体内の卵が十分に成熟しなかったためだろうと思います（ちなみに 2001～2010 年の 4 月の月平均水温は 22.2～23.3℃で、その 10 年間の平均値は 22.7℃でしたが、今年の 4 月はそれより 1℃以上低い 21.5℃で、例年の 3 月よりも低い水温でした）。おかげで、産卵調査のために夜な夜な海にもぐっても、5 月は泳ぎ回るばかりで、ほぼ毎日「産卵なし」の記録をつけ続けるだけでした。ただ、それでもエビやカニが元気に動き回る姿を見たり、これまで見たことのなかったイソギンチャクを発見したり、それはそれでなかなか楽しいこともありました。そう言えば、今年もまたウミガメに再会することがで

きました。そこで今回は、ウミガメの話をしようと思います。

そのウミガメと最初に会ったのは、たぶん 2002 年の 7 月だったと思います。少し濁った夜の海で、いつものようにサンゴの産卵調査をしていたら、ゆったりと泳いでくるアオウミガメと行き会ったのでした。向こうはどうやら寝ぼけているようで、逃げる様子もなく近づいてきます。起こしてしまっただけはかわいそうなので、ライトを別の方向に向けてその場に浮いていたら、カメはすぐ真下をのんびり通り過ぎて行きました。海の中で手の届く距離でウミガメを見たのは、それが初めてのことでした。それ以来、そのウミガメとは、毎年夜の海で何度も会うようになりました。お気に入りの寝床が数ヶ所あるらしく、しかもひと晩で転々と場所を変えるようで、‘さっきまであそこで寝てたのに、今はここにいる’という事が良くあります。そもそもウミガメは海の中では息ができないので、寝ていても当然息つぎのために海面に浮き上がらなければいけません。見ていると、どうやらのその息つぎのたびに場所を変えているようです。ただし、それも半分眠った状態でおこなっているようで、そういう時には最初に出会った時と同じように、あわてて逃げるようなこともなく、ぼんやりと泳いでいます。

そうやってそのカメとは毎年会うようになったのですが、少々のことでは目を

## 定点観測



覚まさないようで、だんだんと近くでじっと見てみたり写真を撮ったりするようになりました。せっかくだったので 2008 年に甲らの長さを計ってみると約 46cm でした。海の中では大きく見えますが、まだ子供なのでしょう。そして、今年計ってみると、約 51cm でした。2 回ともカメを起こさないようにそっとあわてて計ったので、いくらかずれがあるかもしれませんが、この数字を見ると 3 年間で 5cm、つまり 1 年にたった 1.7cm くらいしか大きくなっていないことになります。けれど調べてみると、外国の例では甲らの長さが 60cm から 90cm になるのに 20 年以上かかったという報告があるようで、これだと 20 年で 30cm ですから、1 年に 1.5cm しか大きくなっておらず、阿嘉のウミガメとだいたい同じ（すこしだけ阿嘉の方が速い）です。

別の種類ですが、約 45cm のタイマイを放流したところ、10 年後にもう一度見つけた時には約 67cm で、1 年に 2cm くらい成長したことになるという報告もありました（これも阿嘉島のカメの場合と近い数字です）。けれど、同じタイマイでも、もっと小さい時には 1 年で 5~7cm くらい大きくなるという資料もあります。きっと大きくなるにつれて、1 年当たりの成長は小さくなるのでしょう。ですから、いつも会うアオウミガメも、今後ますます成長はゆっくりになるのでは

よう。

そういえば、3 年ほど前から、もう 1 頭、もっと小さなカメも見かけるようになりました。こっちはずんずん大きくなるのかもしれませんが、こちらの方は、まだ寝床をつきとめていないので、たまたま出会うのを待つしかないのですが、今度寝ているところを見かけたら、驚かさないように注意しながら、大きさを計っておきたいと思っています。

## ● 阿嘉島の海より

6 月 19 日（日）、今年で 7 回目となった阿嘉小学校のサンゴの産卵観察会がマジヤノハマで行われました。前項でも紹介したように、今年は海水温が例年に比べて低く、サンゴの卵の成熟も遅れ気味でしたので、当初 5 月に予定していた観察会でしたが、直前になって 6 月に延期することにしました。観察するのは他の種類よりも早い時間帯（7 時半~8 時頃）に産卵するウスエダミドリイシの産卵です。

準備運動を終えた児童は、産卵開始をチェックしているダイバーの合図を待ち、合図とともに一斉に目印のブイめがけて泳いでいきました。間近に見た自然のサンゴの産卵はどうだったのでしょうか？

